

3. 液状化被害

地震の際には、地面が液状化現象を起こすことがあります。

これは、水を多く含む土地や砂地などが地震で揺さぶられて、液体のようになってしまうことです。

その結果、水があふれて道路や地面がくずれる、建物や電柱、標識などが倒れたり、地面に埋もれたりする、下水道が使えなくなる、地面のなかに埋まっているものが地上に浮き出てくるといったことが起き、大きな災害をもたらします。

平成23年（2011年）3月11日（金）14時46分に発生した東北地方太平洋沖地震では、関東・東北地方で液状化現象が発生し、千葉県、東京都といった東京湾沿岸などで、大きな被害がありました。

写真では、千葉県浦安市の、以下のような被害の様子がわかります。

- ・地面に水や泥があふれている様子
- ・大きく傾いた電柱、信号機、建物など
- ・大きな地割れ
- ・地上に浮き出たマンホール（高洲中央公園。防災意識を高めるためのモニュメントとして保存することになった）